

# おひさまシンポジウム

20年の振り返りと現在の取り組み



2024.12.05

おひさま進歩エネルギー株式会社

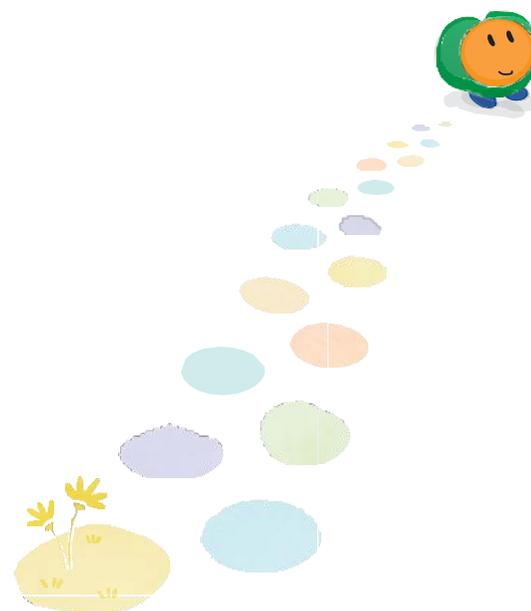
菅沼 利和



2004年12月  
地球温暖化を止めて  
自立して暮らし続けられる地域をつくろうとち  
いさなエネルギー会社  
「おひさま進歩エネルギー」が生まれました。

太陽光発電事業と省エネ事業から  
スタートして20年。

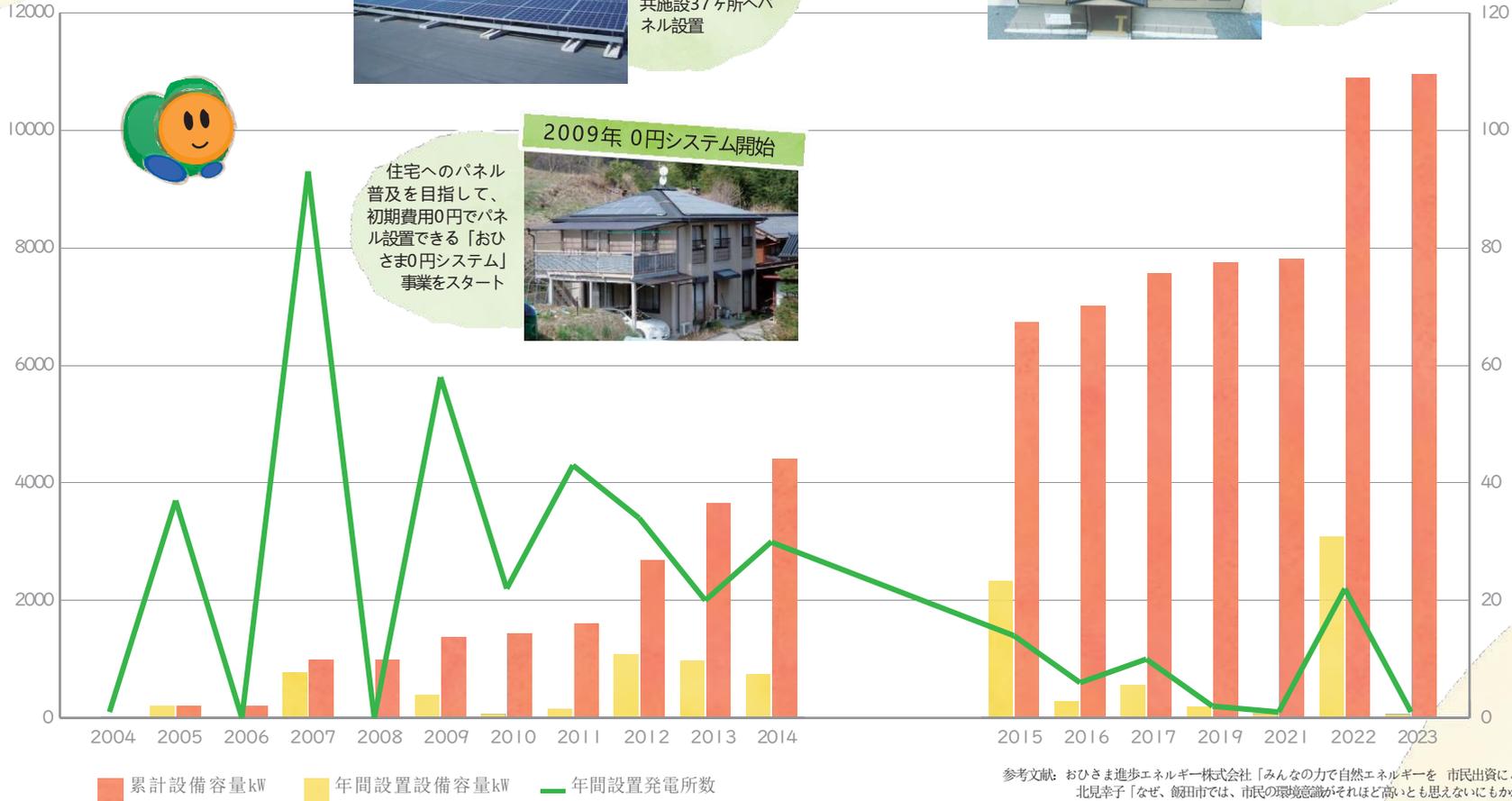
一歩ずつ、歩みつづけた先に  
どんな未来が実現したのでしょうか？



# 地域と一緒に作る太陽光発電 – 20年の歩み –

長野県南部に位置する飯田市は年間を通じて晴れた日が多く、日照条件に恵まれています。2005年、公共施設や企業、住宅の屋根に市民出資を活用してパネルを設置する「屋根貸し事業」を始めました。太陽光発電とともに歩んで20年。法制度の変化に対応しながら、発電所の保守管理の実績を積んできました。これからも地域の皆さまや企業、行政と協力しながら、おひさまの恵みを生かす発電事業に取り組みます。

〈設備容量〉



■ 累計設備容量 kW   ■ 年間設置設備容量 kW   — 年間設置発電所数

**2004年 おひさま発電所1号**

NPO法人南信州おひさま進歩が寄付金を募り、飯田市内の保育園に「おひさま発電所1号」を設置

**2005年 おひさまファンド開始**

太陽光発電普及のため「南信州おひさまファンド」を募集、飯田市内の公共施設37ヶ所へパネル設置

**2009年 0円システム開始**

住宅へのパネル普及を目指して、初期費用0円でパネル設置できる「おひさま0円システム」事業をスタート

**2012年 メガさんぽプロジェクト**

FIT制度を活用して「メガさんぽおひさま発電所プロジェクト」開始、広い屋根をお借りして分散型メガソーラーを実現

**2014年 地域環境権条例1号**

駄科区コミュニティ防災センターのパネル設置事業が飯田市の地域環境権条例第1号に認定

**2021年 ソーラーシェアリング**

ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）を飯田市山本に設置。地元農業法人がネギを栽培中

**2022年 オフサイトPPA事業**

経産省補助事業でFITに頼らない発電所を、屋根や野立て、ソーラーシェアリングに分散して合計3MW設置

**●太陽光発電所数と設備容量**

いま、おひさま発電所は長野県南部を中心に合計404ヶ所（設備容量11MW）まで増えました。発電所数、設備容量の歩みを見ると、民間施設の屋根へ事業を拡大した時期（2006年～）、住宅へのパネル設置を始めた時期（2009年～）に小規模な施設が急増し、2012年以降はFITの後押しから1ヶ所あたりの設備容量が大きな施設が増えてきたことが分かります。

参考文献: おひさま進歩エネルギー株式会社「みんなの力で自然エネルギーを 市民出資による『おひさま』革命」  
北見幸子「なぜ、飯田市では、市民の環境意識がそれほど高いとも思えないにも関わらず、おひさま発電が普及したのか?」  
<https://ohisama-energy.co.jp/2022/12/23/enedai3th-k-paper/>



高森町民体育館屋根の太陽光パネル  
高森町は環境省「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）」に採択。町ぐるみで脱炭素化事業に取り組んでいます



駄科コミュニティ防災センターの太陽光パネル  
おひさま進歩社が20年間発電事業をおこない、駄科区へ毎年支払う屋根賃料は防災備品の購入やセンターの修繕に使われます



# 太陽光発電

## いちばん身近にある発電所

この20年で太陽光発電は身近な存在になりました。これまで飯田市を中心に合計403ヶ所、設備容量11MWの太陽光発電所を設置しています。

## 地域とともにつくる発電所

飯田市の隣にある高森町は2024年、町民体育館へパネルと非常用コンセントを設置。私たちは体育館屋根で20年間の発電事業を行います。役場前のEV充電スタンドの電気もパネルから供給しています。

2014年、飯田市駄科区との共同事業で駄科コミュニティ防災センターにパネルを設置しました。地域の防災力強化につながると評価され「飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例」（通称：地域環境権条例）第1号に認定されました。市民共同太陽光発電事業のパイオニアとして、これからも丁寧に発電所を見守り、安定した運転に努めていきます。



泰阜村パネル・蓄電池導入事業  
泰阜村では2019年、指定避難所の防災機能向上のため中学校など4ヶ所にパネルと蓄電池を設置



ソーラーシェアリング  
飯田市山本のソーラーシェアリング（菅農型太陽光発電）では地元農業法人がネギを栽培



## VOICE



### 太陽光発電プロジェクト

私たちは地域の環境資源を活かした太陽光発電所の開発を行っています。お客様の電気使用量を分析し、太陽光で発電した電力を効率的に使っていただけるシステム構成を設計し、現場では、施工監理者として地元の施工業者様のご協力をいただきパネル設置や電気工事を進めて発電所を完成させます。部材の調達から発電所の完成までにさまざまな関係業者様に協力していただきながら開発をしています。電力を地産地消することで、豊かな地域経済になることを目指し、CO<sub>2</sub>を排出しない環境に配慮した電力で地球温暖化防止に貢献します。



**北林正直さん**（飯田市駄科区 元区長） 地球温暖化防止のため太陽光は絶対に必要という強い思いがあり、屋根貸しソーラーの話を聞いたとき「これはよい」と思いました。駄科区は大正時代、日本初の組合型小水力発電が生まれた歴史があり、役員会や組合で何度も説明して、みんなが賛成して地域環境権条例第1号になることができました。地区の防災訓練では太陽光の電気でご飯を炊き、「こんなこともできるのか」と区民も納得。防災面でも太陽光発電は大事だと思っています。



**取水設備**  
野底川砂防えん堤に取り付けた「取水設備」。発電用の水を取っても、決められた量の水が常に川に流れるように放流口や余水路があります



**水車発電機**  
発電所内ではイタリア製の青い水車発電機が運転中。水車を回した水は、また野底川へ戻ります

# 発電所をつくる 小水力発電

## 野底川小水力発電所

2023年、野底川小水力発電所(飯田市上郷、340kw)の運転が始まりました。小水力発電はダムをつくらず川から直接水を取り込むしくみで、小規模な河川にも設置できます。

### 調査から運転開始まで

2017年から地元の財産区や漁協などへご相談して、野底川で発電事業ができるか調査を開始。採算が取れる流量と、希少生物がいないことを確認しました。詳細設計や、上郷地域で発電計画の説明会などを経て、2022年に着工。翌年9月に営業運転を始めました。

### 上郷地域とともにつくる

この発電所は上郷地域まちづくり委員会との共同事業「飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例」第22号に認定されました。売電収益の一部は、野底山森林公園の整備や環境学習に使われます。愛称は一般公募で選ばれた「もりデン こりき君」です。



**流量調査**  
まずは流量調査。野底川を流れる水の量を、1年間計測しました



**上郷小環境学習**  
上郷小学校の環境学習。5年生が野底山の自然や地球温暖化を学習、発電所を見学しました



## VOICE



### 小水力発電プロジェクト

小水力発電所の開発は、有望地点を探して河川の流量調査から始め、レイアウトや工事費を想定します。近隣住民や自治体など関係者のみなさまに小水力の意義や地域貢献を説明し、賛同いただける事業としていきます。小水力発電は建設できれば50年を超えて使用でき、夜間も発電する安定した再生エネとなります。山と川に囲まれた伊那谷では、100年前から小水力発電が造られてきました。これからも自然の恵みを生かした小水力発電で温暖化防止に貢献します。



### 北原重光さん(上郷地域まちづくり委員会会長)

上郷では明治～大正時代、野底川に発電所をつくろうとした歴史があります。発電所建設の提案を聞いたとき、子どものころ聞いた話が現実になったと思いました。取水方法など見当もつきませんでしたが、近隣の発電所を視察してこれは良い方法だと納得しました。発電事業による寄付金は上郷小学校の子ども達が発電所の見学やCO<sub>2</sub>を出さない電気の仕組みを学ぶ環境学習に活用しています。今後は野底山森林公園の環境整備やもみじ祭りなど各事業を充実させ、さらに親しまれる公園にして参ります。



**パネル点検作業**  
毎年、発電所の屋根点検を実施。パネルに割れなど異常がないか確認します



**野底川発電所メンテナンス**  
野底川小水力発電所の取水口に設けたスクリーンに引っかかった木や落ち葉を除去します



**草刈り作業**  
野立て発電所は、パネルに影ができて発電低下をおこさないよう、また近隣の方のご迷惑にならないよう定期的に草刈りします

# 発電所を まもる 設備管理

メンテナンスで発電量は変わる

発電施設の寿命や発電量を大きく左右するメンテナンス。太陽光発電所は、パネルの割れがないかなどを確認したり、見た目では分からない故障を探し出す専用機器でチェックします。野立ての太陽光発電所は、草の伸び具合に応じて年2~3回草刈りをします。パネルなどの交換作業は地域の電気工事業者と協力して進めます。



**パワーコンディショナー交換**  
パワーコンディショナーは設置して十数年で故障が増えてくるため故障前-新品へ交換

小水力発電所も常時監視

野底川小水力発電所は、水車発電機の稼働状況や発電量、取水した水の濁りなどを常に監視し、運転・停止をしています。秋は大量の落ち葉が取水口から流れ込むため、取り除いて地元農家の肥料として活用します。

太陽光発電の見える化

すべての発電所の発電量は常に監視して、トラブルをすぐ発見する体制となっています。太陽光発電は、主に自社開発した遠隔監視システム「おひさまモニター」を導入しています。



おひさまモニター  
自社開発した遠隔監視システム「おひさまモニター」で発電状況をチェック

## VOICE



### 設備管理グループ

私たち設備管理グループは、設置した太陽光発電所や小水力発電所を安定的に稼働させるための管理・運用を行っています。遠隔監視システムで異常有無や発電量のチェック・webカメラでの監視によりエラーが発生した場合は迅速に復旧できるように努めています。太陽光発電所はこうした管理を行うことで発電量の低下を防いでいます。小水力発電所については発電開始して1年余り経過しました。日々の管理・運用を積み重ねることでより安定した稼働を行っています。



### 古田大介さん (コンテックナガイ株式会社)

創立20周年、誠にありがとうございます。この20年間、地域の再生可能エネルギーの普及と地球温暖化防止に向けた取組みを続けてこられたことに、心から敬意を表します。特に、飯田市を中心に展開されている太陽光発電事業や小水力発電事業など、地域に根ざしたエネルギーソリューションの提供は、多くの方に希望と持続可能な未来をもたらして来られました。皆様のご尽力が、次の20年も輝かしい成果を生み出すことを確信し、さらなる発展と成功をご祈念し、共に歩ませて頂きたいと思っております。



# おひさまファンド

回数	募集年度	ファンド名	募集実績額	実施事業
1	2004-2005年度	南信州おひさまファンド	2億150万円	太陽光発電所 37ヶ所 設備容量 205kw
2	2007年度	温暖化防止おひさまファンド	4億3,430万円	太陽光発電所 92ヶ所 設備容量 771kw
3	2009年度	おひさまファンド2009	7,520万円	太陽光発電所 32ヶ所 設備容量 300kw
4	2010年度	信州・結いの国おひさまファンド	4,790万円	太陽光発電所 22ヶ所 設備容量 73kw
5	2011年度	信州・結いの国おひさまファンドⅡ	8,100万円	太陽光発電所 43ヶ所 設備容量 166kw
6	2012年度	地域MEGAおひさまファンド	3億3,590万円	太陽光発電所 34ヶ所 設備容量 1,073kw
7	2013年度	おひさまファンド7	3億2,790万円	太陽光発電所 20ヶ所 設備容量 982kw
8	2014年度	信濃の国おひさまファンド	1億2,190万円	太陽光発電所 20ヶ所 設備容量 747kw
9	2015年度	みんなとおひさまファンド	2億8,970万円	太陽光発電所 14ヶ所 設備容量 2,332kw
10	2016年度	テントウムシおひさまファンド	1億2,300万円	太陽光発電所 7ヶ所 設備容量 765kw
11	2017年度	11おひさまファンド	1億1,000万円	太陽光発電所 10ヶ所 設備容量 552kw
12	2021年度	野底川水力おひさまファンド	1億5,000万円	小水力発電所 1ヶ所 設備容量 340kw

ファンド募集実績(1号~12号)  
「おひさまファンド」の募集実績。出資金をもとに太陽光発電342ヶ所、小水力発電1ヶ所が誕生しました  
※実施事業は発電所設置のほか、省エネ設備導入事業、バイオマス熱利用事業等も実施

## 日本初の太陽光発電市民出資

2005年、日本初の太陽光発電普及のための市民出資「南信州おひさまファンド」を募集しました。全国の市民(出資者)から寄せられたお金をもとに、太陽光発電や省エネ設備を設置。事業の収益から元本と利益を還元するしくみです。

第1回ファンドは476名から2億150万円の出資でしたが、2020年に当初の計画通り全額の分配を完了しました。

## 「意思あるお金」を集める

2022年「野底川水力おひさまファンド」まで、合計12回募集しました。出資者は延べ3,031名、総額22億9,830万円の出資金をお預かりして事業をおこなっています。完成した発電所を見学する出資者ツアーも定期的におこない、多くの出資者にお越しいただいています。



1号ファンド出資者看板  
「南信州おひさまファンド」の出資者記名看板・発電所マップ(飯田市役所前の駐車場)



歴代ファンド冊子  
「おひさまファンド」募集パンフレット



出資者ツアー  
出資者ツアーは出資金をもとに設置した発電所、省エネ設備、バイオマス施設を見学。社員との交流会もおこないます(飯田山本おひさま発電所、2016年ツアー)

## VOICE



### 経理・財務グループ

私たちは、ご出資いただいた大切な資金の取り扱いや、出資者の皆様のお問い合わせに、日々ご対応させていただいております。  
今までに、多くの方よりご出資や心温まる応援のメッセージをいただき、誠にありがとうございます。10年や20年といった長期に渡るご出資で、たくさんの発電所ができました。  
引き続き契約期間の間、発電事業などの収益から、契約に基づいて分配を実施していきます。これからも引き続きのお付き合いをよろしくお願いいたします。



### 中神嘉紀さん(岐阜県)

「おひさまファンド」は環境にやさしい事業で、お金の行き先も明確だと思い出資を始めました。飯田市は祖父の出身地という縁もあり親しみを感じました。タンス預金では社会の役に経ちませんが、ファンドを通じて社会貢献できるのではと思っています。  
現場も確認したかったので出資者ツアーにも参加しました。関係者の皆さんはとても熱心で、小規模な案件を積み上げていることがわかり、地域のためになる事業だと感じることができました。

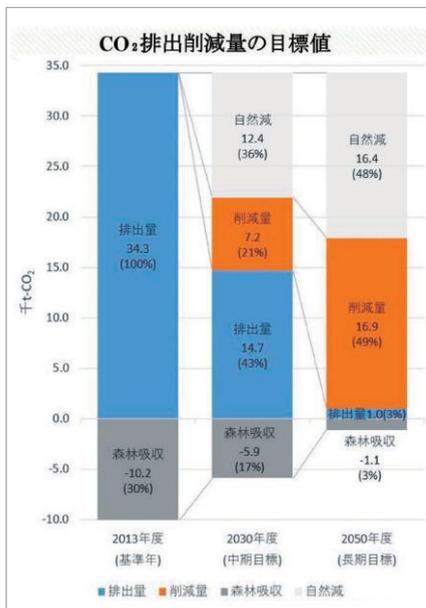
# 脱炭素化を ささえる コンサルティング

## 設備導入や計画づくり

創業時から、再エネや省エネ設備導入などのコンサルティングを続けてきました。いま「2050年カーボンニュートラル」実現に向けて、地方自治体は地球温暖化対策が強く求められています。行政施設のエネルギー使用量やCO<sub>2</sub>排出量の調査、地域全体で脱炭素化を進めるための具体的な計画づくりを支援しています。

## 高森町の計画づくりと事業実現

長野県高森町は2018年、行政が取り組む地球温暖化防止実行計画づくりに着手。その後、計画実現に向けた調査、町民や企業、行政と一緒に取り組む計画づくりを進めて、2022年に環境省「地域脱炭素化移行・再エネ推進交付金事業」に選定され、近隣自治体のモデルケースになりました。おひさま進歩社は2018年から継続的にこれらの計画策定を支援しています。



中川村地球温暖化対策実行計画  
区域施策編から一部抜粋。まず現状のCO<sub>2</sub>排出量をリサーチ。村内で実現可能な再エネ、省エネ、森林吸収等の対策をもとに削減量の目標値を定めます

年度	自治体名	受託業務名
2021年度	長野県飯島町	地球温暖化対策基礎調査業務
	長野県高森町	再エネ導入戦略策定業務
	長野県高森町	地球温暖化防止実行計画策定業務(区域施策編)
2022年度	長野県喬木村	地球温暖化防止実行計画策定業務(事務事業編)
	長野県高森町	地域脱炭素化移行・再エネ推進交付金事業計画書等作成業務
	長野県飯島町	地球温暖化防止実行計画策定業務(区域施策編)
2023年度	長野県喬木村	地球温暖化防止実行計画策定業務(区域施策編)
	長野県高森町	地球温暖化防止実行計画策定業務(事務事業編)
	長野県中川村	地球温暖化対策実行計画策定業務(区域施策編)

受託実績 (2021 - 2023年)  
過去3年間で4町村をサポート。計画づくりから事業実施までサポートします



原村民ワークショップ  
原村ではロードマップ策定支援の一環で住民ワークショップを開催。地球温暖化対策を実現するために必要な行動を村民と事業者、役場が考える場です



中川村地球温暖化防止対策推進協議会  
中川村では地球温暖化防止対策推進協議会の運営を支援しています



計画策定時の調査  
高森町で行われた小水力発電の事業可能性調査。発電できそうな候補地点を絞り込み、採算性ある事業ができそうか調べます

## VOICE



### 自治体ゼロカーボンプロジェクト

太陽光発電所や水力発電所を開発している当社の経験を生かして、具体的に実現可能な計画策定を心がけています。また、スタッフには自治体職員の経験者が複数おり、自治体の担当者と一緒に進める気持ちで、コミュニケーションを密に取りながら仕事を進めています。業務の過程で何度もご訪問することで、自治体の新たな魅力に気づくことも多く、業務を担当する楽しみの一つになっています。



### 多田井 素さん (高森町建設課長 / 前環境水道課長)

2020年、パリ協定が締結されて国や県が加速度的に動き出していました。子どもや孫、未来のために温暖化を抑制する必要があります。町としても積極的な対策が必要だと考えました。職員だけでは専門知識が足りない。技術的、精神的に後押ししたのがおひさま進歩社で、実現に落とし込む手法を期待しました。2030年までに実現できそうで、高い目標値の計画を町民参加でつくることのできた。先進的な取り組みをモデル的に進めた自負があります。他地域をけん引して、地球のために貢献していく町になれればと思っています。



パネルシアター  
 鼎あかり保育園（飯田市）で開催したパネルシアター。  
 さんぼちゃんと省エネの大切さを学びます



旭中樞の実チャレンジ  
 太陽光発電を設置した飯田市立旭ヶ丘中学校1年生の総合学習（2022年）。発  
 電所見学会や地球温暖化を考えるワークショップを担当しました

# まなぶ・つたえる 環境学習

## 太陽光発電とパネルシアター

環境学習の始まりは、会社設立のきっかけとなったNPO南信州おひさま進歩が、太陽光発電を設置した保育園で行ったパネルシアター。子どもたちを通して家庭や地域で環境への関心が高まればとの思いからです。おひさま進歩エネルギーで引き継ぎ、2024年までに119ヶ所で上演、9,000人以上に見ていただきました。

## 発電所づくりと環境学習

太陽光発電を設置した公民館や学校、地域イベントで出前講座を開催して、地球温暖化や再生可能エネルギーについて一緒に考えます。2016年、再エネ人材育成を目指して飯田自然エネルギー大学を開校。各地で活躍するプレイヤーが育っています。



さんぼちゃんはNPO南信州おひさま進歩のマスコットキャラクターとして誕生。名前は、おひさまの「SUN」、NPOや進歩、歩むに由来する「PO」をつなげました。パネルシアターやイベントに登場します。

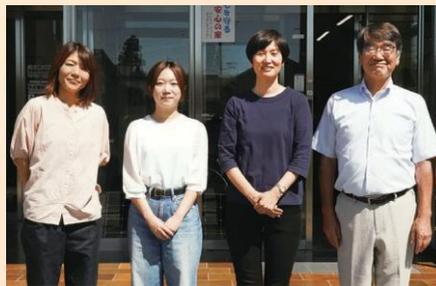


子どもエコ講座  
 デジタル地球儀スフィアを使った「子どもエコ講座」。地球の気象や平均気温の変化を映像で伝えます



飯田自然エネルギー大学  
 2024年、第5期がスタート。再エネ事業を目指す受講生が全国から集まります

## VOICE



### 環境学習グループ

地球温暖化の影響は私たちにとって身近なところにも表れています。世界の平均気温は毎年上昇しており、地球温暖化から「地球沸騰化」と呼ばれる時代になりました。地球温暖化やエネルギーの問題について子どもたちが興味を持って考えるきっかけとなることを目指して、伝え方を工夫しながら学習をおこなっています。地球環境を守るため私たちにできることは何か、環境学習を通じてこれから先も地域に伝え続けていきたいと思えます。



### 福岡恵子さん（鼎あかり保育園園長）

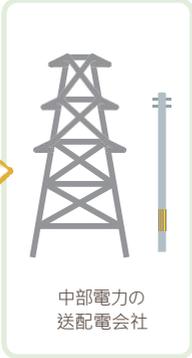
さんぼちゃんと一緒に省エネ学習。「おうちの中に電気で動くものは何があるかな？」「冷蔵庫！」「こたつ！」など身近な電気製品が出てきました。「誰もいないときはどうする？」「こたつが熱すぎる時は？」「消す！」「ちょうとよくする！」と節電の声。「ゲームは長くしていない？」なんて質問も。「外で元気に遊んで、食べ物を残さず食べることが地球にも優しいことです。」と、日々の生活からエネルギーの大切さを学ぶ貴重な時間でした。

# とどける 電気を 飯田まちづくり電力

電気を つくる



電気を 送る



電気を 売る



電気を 使う



電力小売事業の仕組み (電気の調達→まちづくり電力→供給先)  
飯田まちづくり電力が販売する電気は、おひさま発電所や電力市場で調達した電気で作られています

## 地域の再エネ由来の電力を販売

飯田まちづくり電力(株) (代表取締役:原勉) は2018年、(株)飯田ケーブルテレビ、おひさま進歩エネルギー(株)、(株)飯田まちづくりカンパニーが立ち上げた新電力会社。南信州の太陽光発電、小水力発電が生み出した電気を供給しています。調達する電力の50%を飯田下伊那地域のFIT電気で作まかなうのが目標です。

## 小中学校や企業・個人宅と契約

2019年、飯田市と「地域エネルギーに関する包括連携協定」を結び小中学校など50施設へ電力小売事業を開始。2020年、同じく泰阜村とも連携協定を締結。2024年、契約数は公共施設や民間企業、個人住宅含めて1,300件(11MW)まで伸びました。

## ゼロエミッション化を支援

2023年、飯田市の南信州広域タクシー(有) (通称アップルキャブ) はおひさま進歩社が設置した同社の屋根パネルの電力などを生かして、全国のタクシー会社で初めて、公共交通として運行するEV乗合タクシー4台のゼロエミッション化を実現しました。飯田まちづくり電力は同社へ非化石電力を販売して、この事業を支援しています。



電力調達先例 飯田市役所



電力調達先例 野底川小水力発電所 公共施設や企業に設置された太陽光発電、個人住宅のFIT電気、野底川小水力発電所などから電気を調達します



地産地消の  
ゼロカーボンEV導入  
タクシー会社で全国初のゼ  
ロエミッションタクシーを  
実現したアップルキャブ



## VOICE



### 飯田まちづくり電力株式会社

飯田まちづくり電力は、太陽光や水力の電気を販売して、地域のお客様に使っていただくことを仕事にしています。おひさま進歩エネルギーとは別会社ですが、再エネを増やして持続可能な地域づくりに貢献するという共通の目標に向かい取り組んでおり、FITを使った再エネ普及拡大が難しい今、電気の販売先を作り、投資の予見性を確保することが私たちの役割です。エネルギーの地産地消を通じ少しでも地域が元気になればと思います。



### 鈴木佳史さん

(南信州広域タクシー有限会社代表取締役)

20周年おめでとうございます。昨年、私たちの会社では、飯田市の乗合タクシー全路線で脱炭素化を実現し、23年度のエコドライブ活動コンクールで国土交通大臣賞を受賞しました。全社員の地道な努力と共に、地域に根差した、おひさま進歩エネルギー様、飯田まちづくり電力様、さらにはそこに係わる人が同じ思いを共有し、協力した結果、素晴らしいシステムを構築できたと思っています。こうした流れが周辺地域や他の業界にも広がれば良いと思いますので、今後ともよろしく願い致します。

# おひさま進歩 20年の歩み

2004年	2月	飯田市内の有志が「地球温暖化防止するため市民としてできることをやらまいか!」とNPO法人南信州おひさま進歩を発足
	12月	環境省に選定された飯田市の事業を担う民間企業として、NPO法人南信州おひさま進歩が母体となり、おひさま進歩エネルギー有限会社設立。事務所は、いとうや3階（飯田市本町）に置く
2005年	5月	日本初の太陽光発電普及のための市民出資「南信州おひさまファンド」を立ち上げる。476名から出資をいただき飯田市内の幼稚園など37ヶ所へパネル設置。民間と行政が協力した「新しい公共」のモデルとなる
2006年	3月	第1回自然エネルギー起業セミナー開催（人材育成事業は飯田自然エネルギー大学に発展）
2007年	11月	おひさま進歩エネルギー有限会社から、おひさまエネルギーファンド株式会社となる。新たに、おひさま進歩エネルギー株式会社を設立
2008年	1月	NHK番組「クローズアップ現代」に取り上げられて視察や取材依頼が増える
	6月	大手スーパーが全国の店舗におひさま発電所のための募金箱を設置
2009年	3月	環境省の3ヵ年事業が完了。おひさま発電所が南信州地域を中心に160ヶ所以上になる
	3月	第7回「日本環境経営大賞」環境価値創造部門の大賞を受賞
	4月	「NEDO」「経済産業省」より「新エネ百選」に選定
2010年	1月	余剰電力買取制度を活用して個人宅向け「おひさま0円システム」募集開始
	2月	信州イノベーション大賞「環境ビジネス賞」受賞
	2月	「低炭素杯2012」で最優秀イノベーション賞を受賞
2012年	5月	国の固定価格買取制度（FIT）を活用して分散型メガソーラー発電事業「メガさんぽプロジェクト」募集開始
	6月	書籍「みんなの力で自然エネルギーを～市民出資による『おひさま』革命～」出版
	12月	「平成24年度地球温暖化防止環境大臣表彰」を受賞
2013年	7月	自社開発した太陽光発電遠隔監視システム「おひさまモニター」の販売開始
	5月	事務所を旧飯田測候所（飯田市馬場町）に移転
2014年	6月	駄科コミュニティ防災センターの太陽光発電事業が、飯田市の地域環境条例に基づく「地域公共再生可能エネルギー活用事業」第1号に認定
	11月	個人住宅向けの太陽光発電普及事業「マイホーム発電所2014」を新たに募集開始
2015年	6月	「南信州おひさまファンド」のうちA号匿名組合出資の分配を計画通り完了
	5月	地域主導型再エネ事業の人材育成を目指して「飯田自然エネルギー大学」を開校
2016年	11月	売木村地球温暖化防止計画策定業務を受託。自治体の計画策定支援コンサルティングに参入

2018年	3月	おひさま発電所の電気を販売する地域新電力会社「飯田まちづくり電力株式会社」を、株式会社飯田ケーブルテレビ、株式会社飯田まちづくりカンパニーと共同出資して設立
	10月	野底川小水力発電事業の可能性調査を開始。流量観測や生物調査を行う
	11月	飯田まちづくり電力㈱が経済産業省より小売電気事業者として登録を受ける
	4月	飯田まちづくり電力㈱が飯田市と「地域のエネルギーに関する包括連携協定書」を締結。7月から飯田市公共施設等へ電気の供給開始
2019年	6月	ファンド募集を取り扱う第二種金融商品取引業を廃止
	7月	泰阜村防災拠点の設備整備事業を受託。村役場等へ太陽光発電設備、蓄電池、高効率空調、LED照明を導入
2020年	6月	2005年に募集した第1号「南信州おひさまファンド」、2010年に募集した「信州・結いの国おひさまファンド」が出資者への分配を計画通り完了
2021年	6月	営農型太陽光発電「山本ソーラーシェアリング」が発電開始
	1月	野底川小水力発電所の建設工事が着工
	3月	事務所を飯田商工会議所県支所1F（飯田市鼎下茶屋）に移転
2022年	6月	経産省補助事業に採択されてオフサイトPPA事業を実施。太陽光発電所22ヶ所（合計3MW）を建設。飯田まちづくり電力㈱を介して飯田市内の2事業所へ電力供給
2023年	9月	小水力発電の第1号事業「野底川小水力発電所」が営業運転を開始
2024年	12月	創立20周年を迎える。おひさまシンポジウム、記念式典を開催



# 会社概要

## おひさま進歩エネルギー株式会社

〒395-0802

長野県飯田市鼎下茶屋2242-2

(飯田商工会議所鼎支所1階)

T E L 0265-56-3711

F A X 0265-56-3712

U R L <https://ohisama-energy.co.jp/>

メー ル info@ohisama-energy.co.jp

創 業 2004年12月24日

設 立 2007年11月6日

資 本 金 650万円

### 運営体制

代表取締役 菅沼 利和

取 締 役 蓬田 裕一

取 締 役 谷口 彰

取 締 役 海部 岳裕

取 締 役 上沼 俊彦

監 査 役 小林 和博

顧問弁護士 河合 弘之

(さくら共同法律事務所)

## 事業サービス

飯田下伊那地域をベースに地球温暖化を防止するためのCO<sub>2</sub>削減事業をおこなっています。気候変動を抑えて持続可能な地域を築く、まちをつくる、新しいエネルギーをつくるのが私たちの使命です。

- ①省エネルギー事業(高効率機器の導入支援、エスコサービス)
- ②創エネルギー事業(太陽光発電、小水力発電などの再生可能エネルギー事業)
- ③蓄エネルギー事業(蓄電池と太陽光発電を組み合わせたシステム提供)
- ④コンサルティング(自治体のエネルギー計画策定、民間事業者の機器導入、補助金申請を支援)
- ⑤環境学習(保育園児から高校生への学習プログラム提供、インターン受け入れ等)
- ⑥その他(飯田まちづくり電力と連携した電力小売による地域づくり等)

## VOICE

### おひさま進歩エネルギー株式会社 代表取締役 菅沼利和



社員・役員のみなさん、出資者のみなさん、地球温暖化防止を目指す仲間のみなさん、持続可能な地域づくりを行うみなさん、地域のみなさんなど多くの方々を支えられ、20周年を迎えることができました。ありがとうございます。

10周年の2014年以後、新たな事業に取り組んできました。地域公共再生可能エネルギー活用事業、ソーラーシェアリング事業、オフサイトPPA事業、小水力発電事業、自治体向けのコンサルティング事業、飯田自然エネルギー大学などの環境学習事業です。また、電力小売り事業を飯田まちづくり電力(株)として実現することもできました。今後10年の基礎となる事業です。新たな事業を実施するなかで、志を共にする新たな仲間も生まれてきました。

この間、第二種金融商品取引業を廃業しなければならないという苦しい時期もありましたが、社員一同一致団結して乗り越え、発展することができました。

これからも新たな気持ちをもって、2050年ゼロカーボンと持続可能な地域の実現のため、さらなる飛躍を目指します。



この製品は、FSC® 認証材、再生資源、およびその他の管理原料から作られています。